「学び」イベント情報 募集中!!

Web版は随時更新。掲載料は無料です。

12 DEC

3.11 学びなおし塾「災害前の記憶の伝承―被災地各地での“記憶の街”の活動から―」
12月 1日(日) 11:00▶12:00 無料 申込不要
講　師　磯村和樹氏（東北学院大学教養教育センター助教）
場 所 みやぎ東日本大震災津波伝承館多目的スペース
主催者 宮城県復興支援・伝承課、東北大学災害科学国際研究所　問合先 TEL 022-752-2140

特別展「文豪、仙台ニ立チ寄ル。」関連イベント―講演　太宰治と仙台―
12月 1日(日) 13:30▶15:00 無料(要チケ) 要申込
講　師　須永誠氏（フリーライター）　※申込受付：11/7（木）から
場 所 仙台文学館講習室　定 員 80 名
主催者 仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座「アメリカ文学とサンタクロース」
12月 7日(土) 10:30▶12:00 無料 要申込
講　師　中山悟視氏（尚絅学院大学総合人間科学系人文部門教授）
場 所 仙台市市民活動サポートセンター6階セミナーホール　定 員 50 名（先着）
主催者 尚絅学院大学　問合先 TEL 022-381-1490

「地域未来学」講座 15「震災復興から考える地域未来共創の実現―コモンズデザインの視点から―」
12月 7日(土) 13:00▶14:30 無料 要申込
講　師　風見正三氏（宮城大学理事兼副学長・事業構想学群事業構想学研究科教授）
場 所 オンライン開講（Zoom）
主催者 東北工業大学地域連携センター　問合先 TEL 022-305-3818

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座「試験に受かるための心理学」
12月 7日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込
講　師　友野隆成氏（宮城学院女子大学学芸学部心理行動科学科教授）、他
場 所 仙台市市民活動サポートセンター6階セミナーホール　定 員 50 名（先着）
主催者 宮城学院女子大学　問合先 TEL 022-279-4703

「地域未来学」講座 16「グリーンテクノロジーと森林」
12月 7日(土) 14:45▶16:15 無料 要申込
講　師　大場真氏（東北工業大学ライフデザイン学部生活デザイン学科教授）
場 所 オンライン開講（Zoom）
主催者 東北工業大学地域連携センター　問合先 TEL 022-305-3818

仙台文学館ゼミナール 2024：小池光短歌講座第 167 回
12月14日(土) 13:30▶15:40 有料 要申込
講　師　小池光氏（歌人）　※申込締切：11/19（火）
場 所 仙台文学館　定 員 70 名
主催者 仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020

「アイヌ民族資料を収集する―毛利コレクションと杉山寿栄男―」
12月21日(土) 13:30▶15:00 無料 申込不要
講　師　泉田邦彦氏（石巻市博物館学芸員）
場 所 マルホンまきあーとテラス大研修室　定 員 80 名
主催者 石巻市博物館　問合先 TEL 0225-98-4831

「椎名勇仁可塑圏：ねん土的思考」展関連トークイベント②
12月21日(土) 15:30▶17:00 無料(要チケ) 申込不要
講　師　椎名勇仁氏（美術家）、君島彩子氏（宗教学者）
場 所 せんだいメディアテーク7階スタジオb　定 員 30 名
主催者 せんだいメディアテーク　問合先 TEL 022-713-4483

1 JAN

仙台文学館ゼミナール 2024：小池光短歌講座　第 168 回
1月11日(土) 13:30▶15:40 有料 要申込
講　師　小池光氏（歌人）　※申込締切：12/11（水）
場 所 仙台文学館　定 員 70 名
主催者 仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020

第67回 名著への旅

『千の顔をもつ英雄〔新訳版〕（上・下）』
ジョーゼフ・キャンベル 著
倉木真木・斎藤静代・関根光宏 訳
早川書房
（2015年12月25日 初版発行）

ある人物が師的存在に誘われて別世界へと旅立ち、数々の苦難や強敵に打ち勝ったのちに宝を手にし、その宝でもって元いた世界を救済する。

こうした英雄の物語は幾多の小説や映画などに見られる。本書は、こうした英雄譚の「元型」を、世界中の神話の研究を通して明らかにしたことで知られている。

また本書は、個々人の夢の話でもある。キャンベルは「夢は個人に属する神話で、神話は個人を排した夢である」（上・38 頁）と述べ、精神分析学にも依拠しながら、夢に現れる象徴と神話との接続を目指す。それゆえ、英雄の物語は、現代を生きるひとりひとりの人生という「冒険」での苦闘や成長の物語ともなる。そのため、個人史を英雄譚的に理解する、ある種のビジネス書的顔を持ち合わせているところが本書の懐の広いところである。

ジョージ・ルーカスが『スター・ウォーズ』を書く際に本書を参照したことは有名である。『マトリックス』や『マッドマックス 怒りのデスロード』などにも本書の示す「元型」は当てはまる。映像作品の制作や鑑賞のための参照枠組みを提供してくれる名著である。（寺）

参加体験記募集中！

読者の皆様が参加された、「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。
掲載採用させていただいた方のうち毎号1名様に1000円分の図書カードを進呈！
ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント！

※採用の可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。
「まなびのめ」編集部へはがき、FAX、E-mail、Web 版投稿フォームよりお送りください。

第65号 まなびのめクイズの正解発表!!

図書カード1,000円　図書カード1,000円　図書カード1,000円分

「まなびのめ」第 65 号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

Q.1 東日本大震災をきっかけに誕生した、布教を目的としない宗教者の資格は何でしょうか？　答え「認定臨床宗教師」

Q.2 今から 100 年以上前に「宗教病理学」を提唱していた東京帝国大学の教授は？　答え「姉崎正治」

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から**抽選で3名様に図書カード**が当たりますので、奮ってご応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

「気」になる「氣」…当社は言葉を組版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先 / 問い合わせ先
〒984-0011　仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
（FAXは24時間受付　電話受付時間 10:00~16:00 土・日・祝日除く）
manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第66号／発行日2024年10月5日
企画・編集　「まなびのめ」編集部／発行　笹氣出版印刷株式会社

オブザーバー：寺田征也（明星大学）　協力：株式会社市瀬　有限会社阿部正志製本

© 笹氣出版印刷株式会社　無断で複写、複製、転載することを禁じます。

この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙はFSC®認証材および管理原材料から作られている紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。

ご自由にお持ち帰りください。
TAKE FREE 無料

図書カード懸賞付クイズあります
詳しくは中面へ

学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

季刊誌 2024. 10 第66号

学びの庭におじゃまします　映像文化

感動は紫式部にも北野武の映画にも

東北工業大学 ライフデザイン学部 教授
（写真論・映画論・芸術表現）
猿渡　学 先生

文学研究から映画研究へと橋を渡す

東北大学大学院 国際文化研究科 教授
（フランス文学・映画論）
寺本　成彦 先生

行ってみよう！「学び」の場所へ

- これからの主な「学び」イベント 39件 掲載！
- 「学び」イベント に行ってきました
- 名著への旅 『千の顔をもつ英雄〔新訳版〕（上・下）』（ジョーゼフ・キャンベル 著）
- Voice Park

ISO 14001　JQA-EM4031

Web版 随時更新中！ まなびのめ
http://manabinome.com/

発行／笹氣出版印刷株式会社

これからの主な「学び」イベント

有料　無料　無料(要チケ)　要申込　申込不要

▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。
※ 無料(要チケ) は別途入場料等が必要。

詳細は **Web 版に掲載**しております。http://manabinome.com/

ここに掲載する情報は、主催者である各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認ください。

予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

展示

親鸞聖人生誕 850 年 特別展「親鸞と東北の念仏―ひろがる信仰の世界―」
～11月 4日(月) 9:00▶16:45 有料 申込不要
※入館は 16：15 まで、休館日：月曜日（祝日除く）、祝日の翌日（10/15（火）を除く）
場 所 仙台市博物館
主催者 「親鸞と東北の念仏」展実行委員会（仙台市博物館、大塚巧藝社）　問合先 TEL 022-225-3074

開館 45 周年・建物築 150 年記念 企画展「通信の変化と人々のくらし」
～11月10日(日) 9:00▶16:45 有料 申込不要
※入館は 16：15 まで、休館日：月曜日（祝日除く）、祝日の翌日、第４木曜日
場 所 仙台市歴史民俗資料館
主催者 仙台市歴史民俗資料館　問合先 TEL 022-295-3956

第 107 回企画展「土のなかのメッセージ」
～11月17日(日) 9:00▶16:45 有料 申込不要
※入館は 16：15 まで、休館日：月曜日（祝日除く）、祝日の翌日、第４木曜日
場 所 地底の森ミュージアム企画展示室
主催者 地底の森ミュージアム　問合先 TEL 022-246-9153

特別展「文豪、仙台ニ立チ寄ル。」
10月 5日(土)～12月15日(日) 9:00▶17:00 有料 申込不要
※展示室の入室は 16：30 まで、休館日：月曜日（10/14・11/4 は開館）、11/5（火）、第４木曜日
場 所 仙台文学館
主催者 仙台文学館　問合先 TEL 022-271-3020

秋季特別展「多賀城１３００年」
10月12日(土)～12月15日(日) 9:30▶17:00 有料 申込不要
※発券は 16：30 まで
場 所 東北歴史博物館
主催者 東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106

「椎名勇仁可塑圏：ねん土的思考」
11月 2日(土)～ 1月13日(月) 11:00▶20:00 有料 申込不要
※入場は 19:30 まで、休館日:11/28（木）、12/29（日）～ 1/3（金）
場 所 せんだいメディアテーク 6 階ギャラリー 4200
主催者 せんだいメディアテーク　問合先 TEL 022-713-4483

10 OCT

白石市医師会市民公開講座
10月19日(土) 13:30▶14:30 無料 申込不要
講　師　小川真司氏（公立刈田綜合病院整形外科医師）、吉田忠義氏（公立刈田綜合病院リハビリテーション科科長）
場 所 白石市文化体育活動センター（ホワイトキューブ）コンサートホール
主催者 白石市医師会　問合先 TEL 0224-25-0882

宮城県女医会市民公開講演会「安静が危ない！１日で２歳も老化する！」
10月20日(日) 14:00▶15:30 無料 申込不要
講　師　上月正博氏（公立大学法人山形県立保健医療大学理事長・学長、東北大学名誉教授）
場 所 仙台市急患センター２階ホール　定 員 100 名
主催者 宮城県女医会　問合先 TEL 022-397-6581

セミナー『災害に備える住まいのお話し』
10月25日(金) 13:30▶16:30 無料 要申込
講　師　佐藤慶一氏（専修大学ネットワーク情報学部教授）※申込締切：10/23（水）、ホームページ参照
場 所 宮城県庁２階講堂　定 員 150 名
主催者 みやぎ住まいづくり協議会／宮城県　問合先 TEL 022-211-3256

学びの庭におじゃまします

今回のテーマは芸術の秋にちなみ「映像文化」です。
文学からこの世界に進んできたというユニークな経歴をお持ちの東北工業大学の猿渡先生に映像を残すということについてお話をお伺いしました。

感動は紫式部にも北野武の映画にも

源氏物語の研究で大学教員に

皆さん、今年の NHK 大河ドラマ『光る君へ』はご覧になっていますか？　私は毎週楽しんでいます。まず役者がいいですし、話が進むテンポもいい。ただし映像文化を研究している身としては、純粋に楽しむことはできません。脚本や演技はもちろん、大道具、小道具、色彩設計、音響効果、カメラワーク、編集、そしてこれらをまとめる演出など、どうしても創る側の意図や技量が氣になってしまいます。

さらには「この登場人物には『源氏物語』のあの人物を重ねているな」という推理もやめられません。実は私の 40 年近い研究生活のうち、前半は源氏物語をはじめとする平安文学が専門だったからです。それがなぜ写真論や映画論などの映像文化に転じることになったのか、というお話から始めましょう。

私は神奈川生まれですが、育ったのは長崎です。中高一貫の進学校に入ったものの、高校で力を入れていたのは、友人たちと校内でミニ芝居を上演すること。脚本と演出が私の担当で、学校に届けもせずに、いきなり階段の踊り場で芝居を始める。楽しかったですねぇ。

当時は大学でこれを学びたいとか、将来こういう仕事をしたいという希望は特にありませんでした。当然のように浪人してしまい（笑）、今度は連日の映画館通いが始まります。映像を分析的に見るようになったのはこの時からですが、まさか自分が将来その研究者になるとは全く考えていませんでした。

映像だけでなく文学など表現全般に関心があったのは確かで、偏差値と相談した結果、一浪して東北大学文学部に入学します。先生や学生は面白いし、優れた旧作を上映していた名画座をはじめ映画館は多いしで、楽しい学生生活でした。

楽しすぎて留年してしまいましたが（笑）、3 年生になると、いよいよ自分の専門を決めなければなりません。それが古典文学になったのは、授業が感動的で、お書きになる論文がまるで小説のようでユニークだ、という理由で師事する先生を決めたからです。ところが研究室に入ってみると、ご指導はきわめて正統派。それまで古文の教科書でちょっと読んだだけだった源氏物語を、しっかりと通読するところから始めました。

古典が面白くなってきた一方で、知り合った社会人の方が 8 mm フィルムで映画を撮っていると聞いて撮影現場に付いて行ったり、東北放送でバイトして「ジャーナリストもいいかも」と思ったりと、われながら全く落ち着きません。大学院に進んだのも、マスコミの就職活動に失敗したからという理由と、「源氏物語の研究者を目指そう」という意欲が半々くらいでした。

ところが修士課程で研究を深めて博士課程に上がると、「東北大学で助手にならないか」というお声がけをいただきます。さらには研究室の大先輩から「東北工大で教えているが、定年だから君やりたまえ」と言われ、本学の講師になったのです。

東北工業大学　ライフデザイン学部　教授
専門＝写真論・映画論・芸術表現

猿渡　学 先生

《プロフィール》（さるわたり・まなぶ）　1964 年神奈川県生まれ。東北大学文学部卒業。東北大学大学院文学研究科 修士課程修了。文学修士。東北大学文学部助手を経て、1998 年、東北工業大学工学部に講師として着任。准教授を経て、2021 年より現職。編書に『「紫式部集」『大弐三位集』各句索引』。短編映画『晴れ、ときどき雨』、『二人のライカ』で企画制作・脚本・監督・撮影・編集。その他の映像作品に『prière du requiem : les fleurs, la vie（鎮魂の祈り：花々、そして生命）』など。登米懐古館主催『刀剣祭―雙龍子玉英―』で映像制作・写真撮影・ビジュアルデザイン。

映画作りで社会人の基礎を学べ

着任した 1998 年には工学部だけだった本学で、私が担当していたのは文学や日本語表現といった、1・2 年生が対象の教養の授業です。一方で映画館には通い続け、映像関係の歴史や技術を解説する専門書、さらには研究者の論文まで読み漁るようになっていました。2002 年には「北野武 / ビートたけしの世界―『その男、凶暴につき』から『HANA-BI』へ」と題する考察を、大学発行の論文集に発表しています。

最初の転機は、当時の岩崎俊一学長が理事長を兼務されることになった 2004 年でした。先生とお話しさせていただいた際、「映像文化の研究にも身を入れています」と申し上げたところ、それなら専門的な科目を開設しようという話になったのです。

3・4 年生向けに「文化の諸相」「表象文化論」といった授業を持つことになった私は、映像研究に本腰を入れます。推薦人を得て日本映像学会に入会すると、さっそく 2005 年の大会で「北野武の映像世界　『Dolls』に見られる物語構造から」という報告を行い、自分なりの手応えを得ました。源氏物語の研究で続けてきた「ある場面、ある一言を詳細に突き詰めることで、作品全体の意味を読み取る」という手法が、映画研究でも有効であることが確認できたのです。

次の転機は、本学が工学部のデザイン工学科を発展させる形でライフデザイン学部を開設した 2008 年でした。新学部の中に経営コミュニケーション学科（2025 年度より経営デザイン学科）が設置され、メディアコミュニケーションの専門家として、学部に研究室を持つことになったのです。

その前年、私の授業を受けた学生 10 名ほどが、「映画を作りたいので教えてください」と言ってきたので、機材を貸してあげたり、撮り方を教えてあげたり、一緒に大学に泊まり込んで酒盛りしたり（笑）しました。ないない尽くしの中、自主的に地元バンドのプロモーションビデオを作り、ついには劇映画を完成させた彼らの情熱に、私も大いに刺激を受けたものです。

新年度からは、授業で正式に映画製作を教えるようになりました。「先生の研究室で卒業制作に取り組みたい」という学生には、プロの現場でも通用するよう厳しく指導しています。カメラや編集ソフトの使い方も徹底的に仕込みますが、それだけではありません。学内で自分たちだけで楽に作ろうとしないで外部と交渉しろ、お願いして子どもにも年上にも出演してもらえ、あいさつは大きな声で、とうるさく言うのは、社会人になった時、その経験が生きるからです。研究室の卒業生のうち毎年 2 割から 3 割が映像関係の会社に入るのですが、就職先での評価は高く、責任ある立場への昇進が続いています。

映像に記録して伝える大切さ

私にはクリエイター志向やアーティスト志向はそれほどありません。しかし写真を撮ったり映画を作ったりするのは大好きです。授業で技術や手法を説明するために短い劇映画を作り、それを自主上映の形で公開するなどしてきました。脚本、監督、撮影、編集を一人でこなすと、実に多くの発見があります。

今はインターネットで氣軽に映画を楽しむことができます。2022 年にはネット配信のみの作品が、初めて米国のアカデミー賞を受賞しました。一方で名画座やマイナーな作品を上映する映画館は激減し、残念ながら仙台ではほぼ姿を消しました。

写真もデジカメの時代になったと思ったら、今はスマートフォン全盛です。動画を撮ったり編集したりも簡単で、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）にアップすれば、知人に見てもらえるだけでなく海外からの反応もあり得ます。映像の文化状況は大きく変化しましたし、また変化し続けています。

しかし私は、文学に古典が存在するように、映画や写真という、20 世紀に大きく発展した映像表現にも、ぜひ見ておくべき作品、未来に残すべき作品が数多くあると思っています。ネットに溢れている写真や動画の多くは稚拙で、たとえ仲間内で評価されることはあっても、次の日にはまた別の新しい何かに話題が移っているのです。情報過多におちいっている現代だからこそ、人工知能の「おすすめ」だけでなく、定評のある作品を見て、鑑賞眼を養っていただきたいと思います。

その上で、ご自分で撮影された写真や動画をネットで公開し、知人同士で楽しんだり、新たな出会いにつながったりするのは、とても良いことです。研究室の学生たちも宮城県内の各地に出かけて、歴史的な建物、刀剣などの文化財、東日本大震災の津波被災地に建った地元生産物が買えるお店などを撮影し、ネットで公開したり会場で展示したりしています。

私が今、特に大切だと思うのは、映像で記録を残すことです。建物も街並みも、お祭りも行事も、人もその体験も、あるとき突然失われてしまいます。私が『二人のライカ』という長編映画を作ったのは、東日本大震災の被災地の記録映像を学生たちと撮影していた際、野蒜駅の近くで泥と油にまみれたミニアルバムを発見したことがきっかけでした。

源氏物語も、紫式部による原本は失われました。しかし多くの人が書き写したものが伝わってきたからこそ、現代の私たちが享受できているのです。文化を創造することだけでなく、記録すること、伝えることにも、より関心を持っていただければと思います。

（取材＝ 2024 年 8 月 1 日／東北工業大学長町キャンパス
2 号館 3 階 猿渡研究室にて）

懸賞

図書カードを当てよう！　まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.1 東北工業大学で2005年から3,4年生向けに行うことになった猿渡先生の講義の内容は「表象文化論」と何でしょうか？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。寺本成彦先生の記事もご覧ください。

応募方法　はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2024年12月10日 当日消印有効

学びの庭におじゃまします

映像文化とはいえ、そのスタートには文章（文学）があります。
留学先のフランスで映画を観まくったという寺本先生から、文学と映画の関係性や
映画がどんな効果をもたらすかなど、お話をしていただきました。

文学研究から映画研究へと橋を 渡す

映画なら他人の視点を「体験」できる

私が所属する国際文化研究科は、1993 年、他の国や地域の言語・文化・歴史を学び、国際的な交流や協力について研究することを目的に発足しました。私の専門は主にフランス文学と映画論ですが、当科に所属する研究者の専門領域はきわめて多彩です。たとえば私を含む「地域文化研究系」には、いわゆる「外国」だけでなく「現代日本メディア・ジェンダー研究」「日本宗教・思想史研究」の研究室もあって、多くの外国人留学生を受け入れてきました。また、言語学、国際政治経済、環境と資源、そして多文化共生の研究室もあります。

当科では 2010 年から、学外の方々にも公開して、映画の上映と関連する講演を行う「不可視の隣人たち」というプロジェクトを毎年開催してきました。初回の上映作品は札幌市にある朝鮮学校を描いた『ウリハッキョ』というドキュメンタリーで、題名は「私たちの学校」という意味です。韓国から来た留学生に上映会を持ちかけられたことがきっかけで、最初は私の手作りのような形で始まりました。ところが 100 名ほどの参加者があり、講演も好評、その後の質疑も活発だったのです。これは意義の大きい事業だということで、その後は企画や運営に当科の他の先生方にもご参加いただいて現在に至っています。

今年までの過去 4 回は、新型コロナウイルスの影響でオンラインにせざるを得ませんでした。しかし来年からは、会場での開催に戻す予定です。映画は暗いところで、大きな画面で、皆で一緒に鑑賞することによって「共に見る夢」になります。多くの人が、たとえ擬似的だとしても「同じ体験」ができる映画だからこそ、他の国や地域の文化を知り、国際関係や多文化共生について考えるための、良き入口となるのです。

「不可視の隣人たち」というタイトルは、同じまち、国、星に暮らす「隣人たち」が見えていますか、という問いかけを含んでいます。私たちはテレビのニュースやネットで毎日膨大な情報に触れていますが、実はその多くが、限られた視点からのものに過ぎません。そのため私たちは、他の国や地域に暮らす人々、あるいはそうしたルーツを持ちながら離れた土地で生きる人々に対して、無知や無神経になりがちなのです。

そうした人々の視点を、映画を通して体験することは、「他人の皮膚の中に身を置く」ことだと言っても良いでしょう。これは世界を捉え直すとともに、「私たち自身」をも捉え直すことにつながるのです。

小津安二郎の映画をパリで見る

私が関わっている上映会をもう一つ。フランス語学校であり、フランス文化センターでもある「アリアンス・フランセーズ」をご存じでしょうか。1883 年に設立され、現在は世界中で 1,000 校以上が活動しています。日本では 1887 年（明治 20 年）以来の歴史があり、仙台には 1985 年に開設されました。

私は妻と共に、このアリアンス・フランセーズ仙台で「シネ・クラブ」という催しの講師を務めています。フランスで作られたりフランス語が用いられている映画をめぐって参加者と語り合う会です。共に映画を楽しみ、またフランスの文化を学べる良い機会にしていただけるはずです。現在は隔月で開催していて、会員でない方も参加できますので、ぜひお出かけください。

私は高校時代までを島根県出雲市で過ごしています。小学生の時からテレビの洋画放送を親以上に熱心に視聴し、映画の面白さを知りました。高校生になると映画館で主に洋画を見るようになり、大阪大学に入ると、新作を少し遅れて上映する「二番館」や、過去の名作を上映する「名画座」に通い詰めます。もう「映画が三度のメシより好き」という状態でしたね。

フランス文学には高校生の時から関心を持ち、大学院にも進んで、詩人のロートレアモン（1846 ～ 1870）を研究します。彼は無名のままパリで 24 歳で亡くなり、フランスでも長く埋もれた存在でした。しかし自費出版した長編詩『マルドロールの歌』が 20 世紀になって高く評価され、フランスから世界に広がった芸術運動であるシュルレアリスム（超現実主義）の先駆者として知られるようになります。この詩の一節である「解剖台の上のミシンとコウモリ傘の出会いのように美しい」という言葉は、前衛芸術を愛好する人たちの間で特に有名になりました。

博士課程後期の最後の年、パリの東にあるナンシー市のナンシー第 2 大学に 1 年間留学します。ここには芸術系の映画をかける良い映画館があって、欧米・中東の作品を多く見ることができました。大阪に戻ると助手の仕事が得られたため、博士号はまたフランスに行って取ろうと、大学院は満期退学します。

2 年半の後、再びフランスに戻りますが、住まいはパリ近郊に移しました。研究に必要な資料が豊富だったことと、妻がパリ第 8 大学に通っていたからです。パリは映画館が多い上に上映作品の幅が広かったため、フランス語の字幕がついた日本映画もたくさん見ることになりました。たとえば小津安二郎（1903 ～ 1963）の作品が、探せばどこかでは上映していたほどです。

「共に見る夢」をぜひ映画館で

フランス滞在中の 1998 年、カナダのモントリオールで、国際ロートレアモン学会のシンポジウムが開かれました。この詩人の影響を受けた、表現者や表現がテーマです。日本人だと誰だろうと考えて、寺山修司（1935 ～ 1983）に思い至りました。ロートレアモンの代表作『マルドロールの歌』を、そのままタイトルにした中編映画を大阪で見ていたからです。

寺山は前衛的な歌人、詩人、劇作家、劇団主宰者などなどです。映画監督としても、『田園に死す』といった前衛的な作品を数多く残しました。その映画『マルドロールの歌』は元の詩との関連はそれほど強くないのですが、その一節を示した画面が次々と書き換えられ、ついには寺山の短歌になってしまうなど、非常に刺激的な作品です。シンポジウムでの発表を機に、文学から映画へと「橋を渡す」、私の新たな研究が始まりました。

博士論文を書き上げて帰国してからは関西のいくつかの大学でフランス語を教え、その後本学に着任します。文学作品に加え、それを翻案した映画をあわせて論じる研究を続ける中で、私は映画が文学とは別に持つ独自の価値や、“原作” と翻案映画の「意味作用の力関係」についての考察を深めることになりました。

単なる「“原作” とその映像化」ではない例として、同国人の作家モーパッサン（1850 ～ 1893）の短編小説「野あそび」をもとに、フランスの映画監督ジャン・ルノワール（1894 ～ 1979）が撮った『ピクニック』という中編映画を取り上げてみましょう。モーパッサンは『脂肪の塊』や『女の一生』で知られ、日本の近代文学にも大きな影響を与えました。一方のジャンは、印象派の画家オーギュスト・ルノワール（1841 ～ 1919）の次男です。『大いなる幻影』『ゲームの規則』などが有名で、第二次世界大戦中に米国に亡命し、同地で亡くなりました。

「野あそび」には、パリから田舎へ出かけた一家のうち、年頃の娘がブランコに乗る場面があります。これを『ピクニック』では、まさに映画ならではの手法で見事に描きました。ペチコートを履いた両脚をあらわにしてブランコを楽しむ娘のカットの間に間に、これに見とれるボートに乗る地元の男たち、村の悪童たち、さらには通りがかりの神学生らのカットがはさみ込まれます。これによって女性の無自覚なエロティシズムと、それに翻弄される男性の「欲望する視線」が交差する空間を、観客はリアルに認識することができるのです。思わず目を向けた神学生たちを先生がとがめる風刺的なカットにも、つい笑ってしまいます。

小説の魅力とは物語の魅力です。人間にとって物語は太古から親しく、また欠かせない知的営為でした。一方の映画ははるかに短い歴史しか持ちませんが、思うに物語の価値とは別の、「夢 - 中な時間」の感覚を味わう芸術として展開してきたのです。

私たちがイメージする「映画」を世界で初めて作ったのは、フランスのリュミエール兄弟です。駅のホームへと疾駆し近づいてくる列車を撮影しただけの、30 秒ほどの 1895 年のその映画は、観客全員を大慌てさせたそうです。皆さんにも、しばらくデジタル端末の画面から離れて映画館に足を運び、居合わせた他の人々と「共に見る夢」を楽しみ、テレビや PC の画面では捉えきれない「夢 - 中な時間」を味わっていただきたいと願っています。

（取材＝ 2024 年 8 月 19 日／東北大学川内北キャンパス
国際文学研究棟 4 階 403 研究室にて）

東北大学大学院　国際文化研究科　教授
専門＝フランス文学・映画論

寺本　成彦 先生

《プロフィール》（てらもと なるひこ） 1961 年島根県生まれ。大阪大学文学部卒業。同大学院 文学研究科博士課程前期修了。博士課程後期課程 単位取得満期退学。ナンシー第 2 大学（フランス）第 3 期課程修了。文学修士（大阪大学）。博士（文学）（ナンシー第 2 大学）。大阪大学文学部助手、東北大学大学院 国際文化研究科准教授を経て、2012 年より現職。「アリアンス・フランセーズ仙台」シネ・クラブ担当講師。
共著書に『近代日本とフランス象徴主義』、訳書にレイラ・ペロネ＝モイセス／エミール・ロドリゲス・モネガル『ロートレアモンと文化的アイデンティティ――イジドール・デュカスにおける文化的二重性と二言語併用』、共訳書にアントワーヌ・ド・ベック／ノエル・エルプ『エリック・ロメール―ある映画作家の生涯』（2024 年 12 月刊行予定）など。

懸賞

図書カードを当てよう！ まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.2 世界で初めて「映画」（シネマトグラフ）を作ったのは？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。猿渡学先生の記事もご覧ください。

応募方法 はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2024年12月10日 当日消印有効

詳細情報も

Web版はより多くの情報を随時更新しています。

まなびのめ | 検索

http://manabinome.com/

10 OCT

「地域未来学」講座 12「建築構造の免制振、そして構造ヘルスモニタリングシステム」（オンライン）
10月26日(土) 13:00▶14:30 無料 要申込
講　師　薛松濤氏（東北工業大学建築学部建築学科）
場　所　オンライン開講（Zoom）
主催者　東北工業大学地域連携センター　問合先　TEL 022-305-3818

令和６年度館長講座「歴史博物館グローバル紀行」第７回
10月26日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込
講　師　阿子島香氏（東北歴史博物館館長）
場　所　東北歴史博物館館３階講堂　定　員　280 名
主催者　東北歴史博物館　問合先　TEL 022-368-0106

「地域未来学」講座 13「目的が自分を見つけてくれる―NPO と SDGs との出会い―」（オンライン）
10月26日(土) 14:45▶16:15 無料 要申込
講　師　紅邑晶子氏（一般社団法人 SDGs とうほく代表理事）
場　所　オンライン開講（Zoom）
主催者　東北工業大学地域連携センター　問合先　TEL 022-305-3818

11 NOV

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座「アイディア湧き出す「ＫＪ法」楽しくすすめるコツをつかもう！」
11月 2日(土) 10:30▶12:00 無料 要申込
講　師　永野篤氏（聖和学園短期大学教授）
場　所　仙台市市民活動サポートセンター６階セミナーホール　定　員　50 名（先着）
主催者　聖和学園短期大学　問合先　TEL 022-376-3151

公開講演会 in 大河原町「関東大震災と宮城―柴田郡地域での出来事を中心に―」
11月 2日(土) 13:30▶15:10 無料 要申込
講　師　川内淳史氏（東北大学災害科学国際研究所准教授・放送大学宮城学習センター客員准教授）
場　所　大河原駅前ビルオーガ２階　定　員　90 名
主催者　放送大学宮城学習センター・大河原町教育委員会　問合先　TEL 022-224-0651

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座「いつまでも自由に動ける体でいる為の東洋医学知識を科学で分かり易く」
11月 9日(土) 10:30▶12:00 無料 要申込
講　師　吉本豊氏（仙台赤門短期大学非常勤講師）
場　所　仙台市市民活動サポートセンター６階セミナーホール　定　員　50 名（先着）
主催者　仙台赤門短期大学　問合先　TEL 022-395-7750

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座「プラグマティズムで考える、ICT と教育の関係」
11月 9日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込
講　師　梶川萌氏（尚絅学院大学総合人間科学系教育部門講師）
場　所　仙台市市民活動サポートセンター６階セミナーホール　定　員　50 名（先着）
主催者　尚絅学院大学　問合先　TEL 022-381-1490

「多賀城 1300 年」記念講演会①
11月 9日(土) 13:30▶15:00 無料(要チケ) 要申込
講　師　馬場基氏（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長）
場　所　東北歴史博物館３階講堂　定　員　280 名
主催者　東北歴史博物館　問合先　TEL 022-368-0106

「椎名勇仁可塑圏：ねん土的思考」展関連トークイベント①
11月 9日(土) 15:30▶17:00 無料(要チケ) 申込不要
講　師　椎名勇仁氏（美術家）、椹木野衣氏（多摩美術大学教授）
場　所　せんだいメディアテーク７階スタジオ b　定　員　30 名
主催者　せんだいメディアテーク　問合先　TEL 022-713-4483

仙台市歴史民俗資料館企画展・関連講座「くらしとともにコミュニケーションはどれくらい変わったのか」
11月10日(日) 13:30▶15:00 無料(要チケ) 要申込
講　師　宮田穣氏（相模女子大学人間社会学部教授）※申込締切：10/31（木）必着
場　所　仙台市歴史民俗資料館　定　員　20 名（抽選）
主催者　仙台市歴史民俗資料館　問合先　folkmuse@deluxe.ocn.ne.jp

参加体験記　「学び」イベント参加体験記

■大航海時代　－マルコポーロが開いた世界－
会　期：2024 年７月６日（土）～８月 25 日（日）
講　師：７月 13 日天野忠之氏（天理大学教授）、７月 27 日佐々木徹氏（仙台市博物館学芸員）オンライン講座、８月３日巽善信氏（天理大学参考館副館長）
場　所：仙台市博物館ホール（一部、まちなか博物館講座　オンライン講座）
主　催：仙台市博物館

始まりは７月８日（月）の博物館友の会行事の広報セミナーです。学芸員の方の説明と展示内覧会に参加しました。天理大学参考館・図書館所蔵の展示品に感心し、マルコポーロの東方見聞録を読んでみることにしました。長澤和俊訳・解説の角川文庫本です。これは全訳本ではなく、適宜訳文を抜粋しながら、旅行記の内容を読み解いていく体裁をとっています。そのため、愛宕松男訳注［完訳］東方見聞録１、２（東洋文庫）も補足的に読みました。

ポーロは 17 歳の時にヴェネツイアを出発し、42 歳で 25 年間に及ぶ大旅行から帰還します。ヴェネツイアに帰国後、最期を迎えるまでの後日譚も記されています。ジェノバで足かけ５年の牢獄生活中、旅行記が口述筆記されて完成し、ヴェネツイアに再び戻りました。フビライ・ハーンの信頼を得て、使者として回った旅は好奇心を大いに刺激される日々だったことでしょう。

８月３日（土）は巽善信氏による講演「モンゴル帝国とルネサンス－大航海時代のはじまり－」があり、特別展の由来が解説されます。氏はオリエント、西アジア地域考古学を専門とし、今回の展示を企画したそうです。

講演は今回の展示会の趣旨を説明するものともいえます。チンギス・ハーンが開いた、モンゴル帝国はヨーロッパからアジア一帯を広く征服し、国内外に大きな影響を与えました。刺激を受けたヨーロッパではルネサンスをもたらしました。キリスト教支配に疑問を持ち、キリスト教のドグマから離れ、自分の認識で世界を理解しようすることが始まりました。ルネサンスのたまったエネルギーが一氣に外へ、海外にも放出され、大西洋・太平洋へとその波が伝わり、大航海時代を迎え、ヨーロッパの国々、人々が世界を席巻していくことになります。

日本人にはそのことが何故できなかったのか、と問いかけます。持論としながらも、コロンブスなどを例示しながら、「個の強さ」の違いではないかと話します。

７月 13 日（土）には天野忠之氏による「倭寇・南蛮と戦国日本」、27 日（土）には佐々木徹氏による「慶長遣欧使節とは何か」、２つの講演がありました。天野氏の講演では、大航海時代と当時の日本の係わり、特に西日本を中心とした戦国大名たちの海外貿易、信長、秀吉、家康による海外貿易の方針と各大名への対応など海外諸国、中国やアジアとの関係という視点から歴史をみていきます。

家康と政宗は海外貿易の拠点を東日本につくることを画策し、それが慶長遣欧使節の派遣に繋がります。政宗は世界戦略の一環として使節を派遣し、大使に任命された支倉常長（長経）が有名になっていますが、幕府の対外政策が変化していき、使節派遣の目的は果たせなかったと失敗説が定着していることに佐々木氏は異議を唱えます。使節派遣の目的には、①キリスト教布教と貿易－定期航路の開設、②メキシコ伴天連との貿易があり、南蛮貿易が数度行われた実績を考慮すると、必ずしも失敗だったとは言い切れないとします。氏の著書「慶長遣欧使節 吉川弘文館 2021 年」も読んでみました。氏によれば、政宗の使節派遣の意図を巡って諸説があり、歴史家の間で論争が続いているようです。いずれにしろ、政宗は「個の強さ」を持つ人間の１人だったのでしょう。

視点を変えて、あるいは、事実を掘り起こして見直した歴史の話を聞くことは、門外漢にとっても楽しいものです。博物館の特別展示から刺激を受け、関係の講演会や博物館、図書館に度々通った夏となりました。　（仙台市　島田昭一）

読者の声　Voice Park　読者と編集部のキャッチボール

第 65 号　宗教・信仰

死生観は、きわめて個人的なものです。谷山先生の考え方に共感しますが、大震災後にそれぞれの苦難を味わった方々の救いにもなるでしょう。毎月の情報楽しみにしています。自分のスケジュールに合わせ、他にない情報を大切にしています。小さい好奇心が大きなものになる思いです。　（名取市・84 歳）
編：「小さな好奇心が大きなものになる」とは素敵な言葉ですね。胸に刻み、今後の企画に反映できるよう精進いたします。

宗教についてはよくわからず、なんとなく怖いイメージしかありませんでした。　（仙台市青葉区・43 歳）
編：宗教に対するイメージが怖いと感じることはよくありますが、実際には様々な教えや価値観が存在します。少しずつ学んでみることで、新しい理解や氣付きに繋がるかもしれません。

「学び」イベントには興味はあるが開催地へ行かないとダメだと思っていましたが、オンラインでの開催もあるんですね。学ぶ機会が増えるのでこれからもっとオンライン同時開催が増えてくれるとありがたいです。　（柴田町・56 歳）
編：そうなんです！「コロナ禍」以降、オンラインでのイベントや講座がめざましい進歩発展を遂げ、居住地に関わらず、多様な学びに触れることが出来るようになりました。参加された際には、「参加体験記」をお寄せください！抽選で図書カードのプレゼントもご用意しております！！

学びイベントが沢山載っていて楽しくなります。新しい「学校」のあり方やパウル・クレー、「生成ＡＩ」等行ってみたいイベントがあり、うれしいです。知らないだけで、イベントがこんなにあるんですね。　（仙台市青葉区・51 歳）
編：秋にむけて、今号にもたくさんの学びの機会がございますので、ぜひ参加されてみてください。「参加体験記」もお待ちしております！

信仰している宗教はないのですが、これまで、無意識的に仏教や神道などいろいろな宗教に関わる行事や式典などに参加する生活をしています。川島先生ご指摘のように、人生の終盤を迎えた現在、改めて宗教について考えてみたいと思います。
（仙台市青葉区・71 歳）
編：日常的に関わる行事や式典に参加する中で、多くのことを学ばれているのですね。改めて考えることも、とても意味深いことです。自分に合った信仰や哲学を見つけるために、少しずつ情報を集めたり、著書を読むのも良いかもしれません。

「学び」イベントが一冊に集約されており、とても見やすいです。友人にも一冊手渡し好評を得ることができました。
（黒川郡大和町・28 歳）
編：ご友人にもお渡しいただいたとのこと！感謝申し上げます。オンライン開催のものもありますので、イベントにご参加された際には「参加体験記」をお送りいただけると幸いです。

カルトと宗教に関する特集で大変興味深い内容でした。今後もより多様なジャンルの研究者からの発信を特集して頂きたいです。　（利府町・63 歳）
編：テーマ「宗教・信仰」についてお楽しみいただけたようで嬉しいです。今後も、様々な先生のインタビュー記事をお届けできるよう努めます。ご期待ください。

その他のお便りと編集部からのコメントは Web 版でご覧いただけます。

「まなびのめ」配色法：襲色目（かさねのいろめ）
第 66 号・秋／「紫苑」（si-on）

これからの主な「学び」イベント

詳細は Web 版に掲載しております。http://manabinome.com/

予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

11 NOV

特別展「文豪、仙台ニ立チ寄ル。」関連イベント―対談　岩野泡鳴を語る―
11月10日(日) 13:30▶15:00 無料(要チケ) 要申込
講　師　池上冬樹氏（文芸評論家）、佐伯一麦氏（作家・仙台文学館館長）※申込受付：10/10（木）から
場　所　仙台文学館講習室　定　員　80 名
主催者　仙台文学館　問合先　TEL 022-271-3020

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座「建物は何でできている？素材と構造から読み解く現代の建築」
11月16日(土) 10:30▶12:00 無料 要申込
講　師　安田直民氏（宮城学院女子大学生活科学部生活文化デザイン学科教授）
場　所　仙台市市民活動サポートセンター６階セミナーホール　定　員　40 名（先着）
主催者　宮城学院女子大学　問合先　TEL 022-279-4703

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座「健康に暮らすコツ」
11月16日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込
講　師　長谷川麻子氏（宮城学院女子大学生活科学部生活文化デザイン学科教授）
場　所　仙台市市民活動サポートセンター６階セミナーホール　定　員　40 名（先着）
主催者　宮城学院女子大学　問合先　TEL 022-279-4703

「多賀城 1300 年」記念講演会②
11月16日(土) 13:30▶15:00 無料(要チケ) 要申込
講　師　熊谷公男氏（東北学院大学名誉教授）
場　所　東北歴史博物館３階講堂　定　員　280 名
主催者　東北歴史博物館　問合先　TEL 022-368-0106

ストップ！ DV・性暴力市民講座 2024 第１回「“これってモラハラ？”見えづらい精神的 DV とは」
11月17日(日) 13:30▶15:30 無料 要申込
講　師　西山さつき氏（NPO 法人レジリエンス代表理事）
場　所　エル・パーク仙台セミナーホール　定　員　80 名
主催者　仙台市・公益財団法人せんだい男女共同参画財団　問合先　TEL 022-268-8302

令和６年度館長講座「歴史博物館グローバル紀行」第８回
11月23日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込
講　師　阿子島香氏（東北歴史博物館館長）
場　所　東北歴史博物館館３階講堂　定　員　280 名
主催者　東北歴史博物館　問合先　TEL 022-368-0106

せんだい文学塾 11 月講座
11月23日(土) 16:30▶18:30 有料 要申込
講　師　角田光代氏・井上荒野氏・江國香織氏（直木賞作家）
場　所　仙台文学館
主催者　せんだい文学塾　問合先　sendaibungakujuku@gmail.com

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座「多様性という「アイデンティティ」のゆくえ―社会学的視点から現代を考える―」
11月30日(土) 10:30▶12:00 無料 要申込
講　師　小野寺修氏（仙台青葉学院短期大学ビジネスキャリア学科講師）
場　所　仙台市市民活動サポートセンター６階セミナーホール　定　員　50 名（先着）
主催者　仙台青葉学院大学・短期大学　問合先　TEL 022-393-6453

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座「健康長寿の秘訣：腸内細菌をコントロールする食事の話」
11月30日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込
講　師　相澤恵美子氏（仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科教授）※申込締切：11/22（金）
場　所　仙台市市民活動サポートセンター 6F セミナーホール　定　員　30 名（先着）
主催者　仙台白百合女子大学図書館・地域貢献研究センター　問合先　TEL 022-374-5090

学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座「環境政策の経済学―環境問題へ応用された経済学の手法とは―」（ハイブリッド）
11月30日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込
講　師　小祝慶紀氏（東北工業大学ライフデザイン学部経営コミュニケーション学科教授）
場　所　仙台市市民活動サポートセンター６階セミナーホール＋オンライン配信　定　員　50 名（会場・先着）
主催者　東北工業大学　問合先　TEL 022-305-3818